

須田家文書（附文書収納容器一式）



須田家文書収納容器および須田家文書の一部



井荻町東荻新名称新地番区域図  
(道路整備用砂利敷設控)、昭和7年

〔指定年月日〕 平成二二年二月一〇日

令和 三年二月二十五日追加指定

〔種 別〕 指定有形文化財（古文書）

〔名 称〕 須田家文書（附文書収納容器一式）

〔点 数〕 九八三三点

〔所有者等〕 杉並区教育委員会

〔所在地等〕 大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

指定有形文化財（古文書）

## 須田家文書（附文書収納容器一式）

須田家文書は、武蔵国多摩郡下荻窪村の旧家須田家に伝来した文書群である。平成二一（二〇〇九）年度に六五〇三本の文書を指定し、平成二七（二〇一五）年に同家より寄贈された追加資料を含め整理し直した結果、総点数九八三三本の資料群となった。須田家が居住した下荻窪村は、江戸期において山王日枝神社の社領で、山王役所、山王代官からの御用人足差出の触書、年貢割付状等が多く残されている。須田家は、江戸期は主として新右衛門と称し、名主、年寄役、組頭を歴任し、明治期以降は地租改正掛、井荻村村会議員、同助役、学務委員等を務めた。

この他、井荻土地区画整理組合、井荻村教育会、井荻村将兵義会など、当地域において須田家が果たした社会的役割にもとづいた文書群や日記、書簡、教科書、雑誌、名刺等が多数存在している。須田家文書収納容器は、蔵解体時に文書が保管されていた木箱、行李、錢箱、風呂敷など二二点である。本文書は、明治・大正・昭和期の近代文書が圧倒的に多い。とくに須田新右衛門が、井荻村、井荻町の中心的人物の一人であったことから、その多彩な活動を反映したものである。明治・大正期の当地域の政治・社会・文化状況を解明する資

料として貴重である。

追加文書は平成二一年度指定文書を補完する資料であり、明治期から昭和中期に至る井荻地区の公務や、寺社・民間信仰などの幅広い活動を行った、杉並の旧家である須田家の家業や生活、及び変遷を伝える資料として貴重であり、近現代の地域社会の動向を知るうえで好適な資料である。

【文化財旧所在地】須田家

